

地域組織の確立で
会員間の絆の促進を

化会 強談 連携 懇 現状の危機感を共有し 連携の強化を確認

連休明けの5月9日、JAMシニアクラブはJAM三役との「第2回連携強化懇談会」を開催した。懇談会前にシニアクラブ三役会議を開催し、3月以降の活動報告を確認、新年度活動方針骨子及び政策・制度の取り組み方針、シニア活動検討委員会の中間答申等について討議し、現役との連携強化懇談会に臨んだ。

連携強化懇談会は16時からJAM会議室で開催された。冒頭、JAM宮本礼一会長は、

愛媛シニアクラブの前身、愛媛金属労働者高齢者の会は昭和60年に発足したが、結成総会での当時目標は退職者の会の組織化・会員拡大と親睦会を重点とする。と、あった。

今も当時の目標に変わりは無い。しかし、現在なお退職者の会がない組織も多い。現役労組の積極的な取り組みを期待している。

会員拡大は、永遠の課題だと思いが、私の所属する井関農機退職者の会では会員数維持さえ難しく減少傾向に歯止めがかからない。



主張

高齢を理由とした脱会や死亡による自然現象はやむを得ないが、入会者が極端に

めがかからない。内の声掛けとパンフレットの配布。退職者説明会時における現役・シニア合同の勧誘等を行ってきたが、殆どの人が「仕事をこなしている間は、行事に参加が出来ない。雇用延長が終わった時点で改めて検討したい」と、雇用

愛媛シニアクラブ代表幹事 濃田 淳次郎

知恵と地道な活動で 会員1万人の達成へ

延長を断りの理由に使われてしまう。我々の組織だけではないが、退職後は二度と組織に拘束されたくない、地域の自治会活動にも一切顔を出さない人が少なくないことも事実である。このように、何事にも干渉されずにそのまま余生を送りたいと思う人々が増えてきている時代ではあるが、だからこそ、先輩・同志の意思を後世に伝え、何としても退職者組織を維持・継続していかなくてはならないと考える。

あるべき水準を念頭に各単組が積極的に交渉した結果であることを強調した。また、「内閣府が高齢者の定義を70歳とした。年金部会で年金支給年齢の引き上げがあるのではないかと懸念している」と述べ、JAM独自の政策制度への取り組みの意欲を示した。

協議では、①JAMとシニア双方の活動②政策制度の取り組み③

シニア活動検討委員会の報告がされた。意見交換では、シニアが実施したアンケート集計の結果にふれ、地方JAMからの協力状況はシニア担当者の専任と事務局業務や会議・行事への様々なサポートなどで満足できる状況となっていることが明らかとなったが、現役の協力があまりされていないとする地方があること、シニア組織の拡大や単組の組織づくりの面では地方JAMのより一段の協力が必要なこと、連携強化懇談会が開催されていない地方に対してJAM本部から開催に向けた積極的な働きかけを要請した。

また、シニアクラブはJAMの一翼を担う組織であることを明確にして、これまで以上に現役との連携協力を強めていくことを確認した。

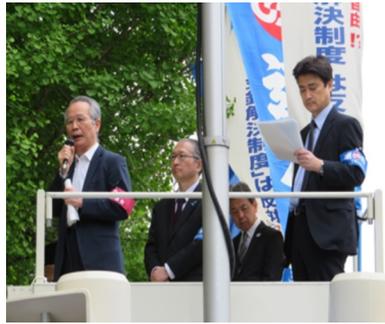
そのうえで、地方シニア活動の中心はレクレーション活動にかけられ、会員に非常に好評であることが分かったが、全国横断的な活動として年金・医療・介護の政策制度に取り組んでいく考えであることとを伝え、現役の講師派遣などへの協力をお願いした。そして税と社会保障の一体改革についてJAMとしての考え方をださなければならぬとの見解が示された。

最後に現役から地方議員との連携づくりにシニアも協力してほしいとの要請があった。

今さらではなく、今から！ 行動する退職者連合へ

解雇の金銭解決制度導入反対集会に参加 雇用の安定なくして社会保障なし

退職者連合は連合との連携を強め、2月の参議院内集会をはじめ3月の有楽町駅前におけるカジノ賭博廃止を訴えるピコ配布、4月の介護保険法改正案審議に合わせた傍聴行動や解雇の金銭解決制度導入反対集会など、行動する退職者連合の方針に沿って国会への要請行動や街頭抗議行動を強化しており、JAMシニアクラブもこの行動に積極的に参加している。



4月26日、連合は午前9時20分から厚生労働省前で「解雇の金銭解決制度の導入に反対する集会」を開催した。集会で退職者連合の菅井義夫事務局局長は、連合組合員や退職者連合の仲間など180人の参加者を前に連帯と怒りの声をあげた。退職者連合として4回目の参加となった厚生労働省前

の集会には退職者連合の仲間とともにJAMシニアからも本部役員が参加した。主催者代表挨拶の冒頭に神津里季生連合会長から退職者連合の仲間への参加に感謝の意が述べられ、代わってマイクを握った菅井事務局局長は、「退職者連合



への参加を強調した。そのうえで、「政府与党は金さえ出せば労働者をいつでも首にできると。そんな制度をつくりたいという。どこまで労働者を粗末にしたら気が済むのか。首切り自由のライセンスを使用者に与えるようなことをしてはいけない」とし、「安定した雇用を確保するために、しっかりと社会保険制度を皆さんの世代に繋げるために検討会に参加している仲間が応援に駆けつけた」と連携した行動

清流長良川ウォーキング

笑顔の花と会話で桜並木を散策

傍鳴 征夫通信員

JAM岐阜シニアクラブは第4回ウォーキングを会員の交流を深め合い組織の拡大につなげたいと願い、4月8日(土)、25人が参加し実施した。

あいにくの悪天候のなかでの開催であったが、長良川河川敷の一带は、桜の花が満開で



しかも雨に濡れた桜の花びらが一段と美しく映え、傘と傘との間から桜を覗くのも愛おしく見えた。傘を差しながらのウォーキングであったが、岐阜公園周辺には、観光名所が多々あるなかで歴史ある名和昆虫館博物館や加藤栄三記念館など、学生時代見学をしたことがなく懐かしく思いだされた。

雨宿り場所として少し足を伸ばした大正寺

の巨大な大仏を見学。ガイドさんの説明によると、江戸時代に30余年かけて造られたもので、しかも材料はかご細工で胴体をつくり、周りには泥壁を塗り、表面に漆を塗り、その上に金箔が貼られて仕上げられた大仏様と聞き、江戸時代にこのような技、技術をすでに持っていたこと、しかも高さは13・5メートルもあるとのこと驚か

された。散策の最後に寄った川原町周辺は、戦前に建てられた風景を思わせる懐かしい建物に入り、ウォーキング中は傘を差してのために、充分なる近況の話が出来なかつたこともあり、歩き疲れを忘れるくらい微笑ましい笑顔を見せながら会話が弾み、悪天候のなかではありましたが楽しい一日を過ごすことが出来た。

この透明かつ公正な労働紛争解決システムのあり方に関する検討会は、厚生労働省が日本の再生戦略などを受けて、2015年10月に設置した解雇の金銭解決制度を導入するための検討会の名前だ。委員には労使も含めた22人で構成され、連合側委員は4人。厚生労働省は解雇の金銭救済制度と表現しているが、これまでの検討会で見

えてきたのは企業側からの「不況が長引いて過剰雇用を抱えきれなくなっている時の新しい解雇ルールが必要」、「会社側が申し立てられないなら、解雇の金銭解決制度をつくる意味がない」、「すべて金で解決を」などの本音が聞こえてくる。会社が解決金さえ払えば解雇できるルールができれば労働者が勝つても職場に戻れないことになる。こうなれば不当な解雇が増え、「どうせ裁判を起こしても金銭解決できるのだから、早いうちに退職したらどうか」など、労働者が職場に戻る道が閉ざされてしまうことになる。

シニアクラブホームページを開設 ホームページをご覧ください

パソコン、スマホから「JAMシニアクラブ」と入力し検索するとつながります。機関紙、共済、本部・地方活動、生活情報などを掲載しています。会員の皆さんで活用ください。アドレスは <http://jam-senior.club/>です。